

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年4月13日（月）

2 確認箇所

5・6号機タービン建屋（図1）

3 確認項目

5・6号機タービン建屋滞留水及び地下水の流入低減対策の状況

4 確認結果の概要

東日本大震災以降、福島第一原子力発電所5・6号機では、サブドレン設備の停止により建屋の地下階に地下水が流入している。その後、当該設備の復旧工事^{※1}が完了し、令和4年3月28日から建屋周辺の地下水汲み上げを再開しているものの地下水の流入は継続している状況^{※2}にある。

5・6号機建屋の地下階に滞留している地下水（以下「滞留水」という。）は、F1タンクエリアに移送、浄化処理された後、構内に散水されている。

今回、5・6号機タービン建屋地下階において、滞留水や地下水の流入低減対策の状況を確認した。（前回確認：[令和7年11月14日](#)）

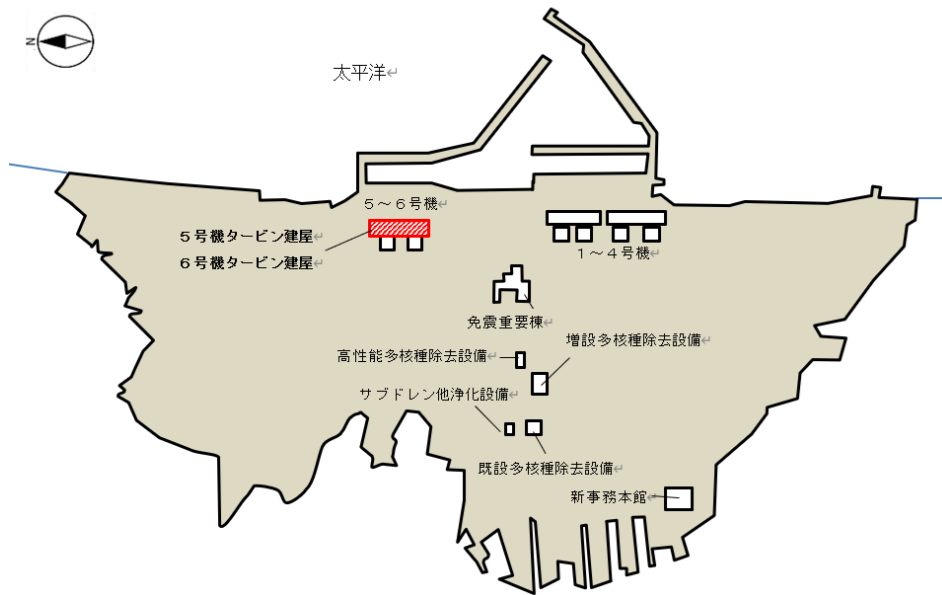
- ・5・6号機のタービン建屋地下階における滞留水の状況を確認した結果、水位は5号機で約80cm、6号機で約90cmであった。（写真1）
- ・建屋内には、各所に滞留水移送用の配管（仮設）が設けられており、5・6号機の建屋内の滞留水がF1タンクエリアに移送されていることを確認した。（写真2）
- ・東京電力としては、2026年度中を目途に5・6号機建屋の地下階の床面露出を計画しているとのことであった。
- ・確認した範囲においては、滞留水移送用の配管からの水漏れ等の異常は認められなかった。

※1 5・6号機サブドレン設備復旧工事

東日本大震災以降稼働を停止していた5・6号機建屋周辺のサブドレン設備（地下水くみ上げ設備）を復旧するための工事。サブドレン設備の復旧により地下水位を低下させ、建屋に流入する地下水の量を抑制できる。

※2 地下水の流入状況

東京電力によると地下トレンチ内の配管貫通孔部や壁のヒビなどから地下水が流入しており、至近の地下水流入量は30m³/日となっている。



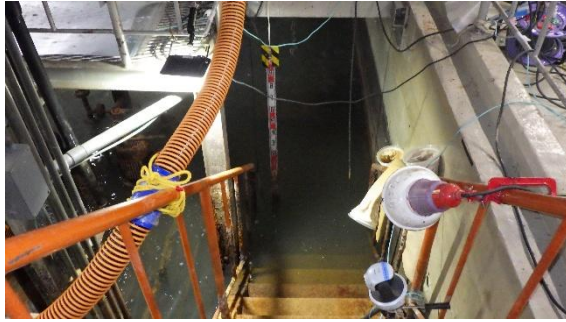
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
5号機タービン建屋地下階における
滞留水の状況



(写真1-2)
5号機タービン建屋地下階の水位



(写真 1 - 3)
6号機タービン建屋地下階における
滞留水の状況



(写真 1 - 4)
6号機タービン建屋地下階の水位



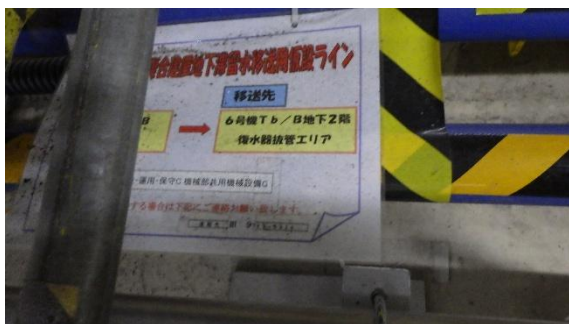
(写真 2 - 1)
滞留水移送用の配管の状況①

滞留水移送配管



(写真 2 - 2)
滞留水移送用の配管の状況②

滞留水移送配管



(写真 2 - 3)
滞留水移送用の配管の状況③

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。